

はじめに

新学習指導要領において、小学校中学年では、音声に慣れ親しませながら、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成するため、「外国語活動」が導入され、高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞くこと」「話すこと」に加え、積極的に「読むこと」「書くこと」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うため、教科として「外国語科」が導入されました。中学校においては、小学校英語の内容や児童の状況を踏まえた上で、日常的な話題や社会的な話題について、考えや気持ちを伝え合う活動を行うことになり、今後より一層、小中連携を進めることが求められています。

また、小学校におけるこの新しい外国語教育導入について、小学校の先生方からは、外国語活動と教科外国語の違いは何なのか、教科外国語の指導はどのように行えばよいのか、など、不安の声が聞かれました。

このことを踏まえ、今年度「三重の英語教育改革加速事業」にて、中学校区でモデル校を指定し、小学校モデル校において、国から配付された教材を活用し、外国語活動において「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めた上で、外国語では、段階的に「読むこと」「書くこと」も加え、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を育成することを目的として、小学校における発達段階に応じた英語指導法の研究・開発を行いました。また、小中一貫した学習到達目標を設定する等、小中学校の円滑な接続についても研究を行いました。

本冊子では、前半に、2019年度以降の「小学校英語の課題への取り組み」についての解説を、後半に小学校モデル校公開授業をもとに、指導上のポイント等を明記した実践事例の指導案を掲載しました。

本実践事例集を授業や研修会等で積極的に活用していただき、児童生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図る力の育成を一層すすめていただけるよう願っています。

平成31年3月
三重県教育委員会